

【応募用紙】

提出いただいた応募書類（規約・会則等、役員名簿、収支書類を除く）は、活動内容紹介のため、ホームページ上に公開します。

1. 応募者概要

氏名または 団体名	(ふりがな: えぬびーおーほうじん えいちあんどけい こまつなぶろじえくとかつどう) NPO法人 H&K 「小松菜プロジェクト活動」		
代表者の 役職・氏名 (団体の場 合)	(ふりがな:りじちょう いしだたかし) (役職) (氏名) 理事長 石田陸	会員数 (団体の場合)	(令和2年 11月現在) 10名
ホームペー ジ アドレス	https://www.facebook.com/HK.tudukiku	活動開始年月	平成22年 4月 (前身団体)
活動地域 (複数選択可)	①横浜市 (都筑) 区 ②横浜市全域 3 その他()		
活動分野 (複数選択 可)	1 川・海・水 2 緑・樹林 ③農業 4 3R ⑤環境教育・学習 6 生物多様性 7 地球温暖化対策 ⑧その他(子育て支援、街づくり)		
活動の目 的やねらい	私たちは、横浜市都筑区の小松菜が「全国でもトップクラス、横浜市でも生産量一」ということを知り、地域の活性化・愛着づくり・健康づくりにつなげたいという思いで前身の市民団体「H ハッピーラボ」「K 小松菜プロジェクト」を設立しました。その後合併し、NPO法人H&Kを設立。H&Kは「家族、高齢者、障がい者を含む全ての地域住民に対し、女性支援・子育て支援の集いの場の運営事業、イベントの開催、食育、リフレッシュメント支援事業などを行うことにより、多世代交流の場所と機会を提供しもって住民の心身の健康、コミュニティの醸成および地域の活性化に寄与すること」を目的としています。		
過去に受けた 表彰および受 賞年度			

2 最近3年間の主な活動

	活動・取組・イベント等の名 称 発行した印刷物等の名称	参加人数、 発行部数等	詳細内容
平成 30 年度	①食育講座・料理講座・ワーク ショップ ②レシピ開発・試作・試食 ③交流事業 (詳細は別紙 1-1、1-2 参照)	・計 23 名 部数 23 ・計 30 名 部数 30 ・計 2950 部数 2950	①生産者との交流「農業専用地域の環境保全」「地産地消」の大切さを実感 ②都筑区産小松菜、横浜野菜を使った料理のレシピ開発・試作・試食 ③地域の祭り、地区センター、民家園からの委託、子育てサークル、他のNPOとの連携など
令和 元 年度	①地産地消・食育支援事業 ②地域支援・交流事業 (詳細は別紙 1-3、1-4 参照)	・計 54 名 部数 54 ・計 687 名 部数 687	①「小松菜プロジェクト」の食育活動を継続し「農業専用地域の環境保全」と「地産地消」の大切さを実感。法人化。レシピ開発も引き続き行う。 ②外国人親子向け食育講座、ワークショップ、野菜の収穫体験の企画・開催

令和2年度	①地域支援・交流に関する事業 ②都筑区「地域づくり大学校」の講師を務める (詳細は別紙1-4、1-5、1-6、1-7参照)	・計103名 部数103 ・計10名 部数10	①コロナ感染対策を取り、野菜の収穫体験を開催 ②2020年11月14日都筑区役所にて*別紙1-5参考資料2 ※コロナ禍で本事業(小松菜プロジェクト)はほとんど中止(その他の地域支援・交流事業は継続中)
-------	---	----------------------------------	--

3 地域との関わり

	活動・取組等の名称	詳細内容
自治会・町内会との関わり	都筑区茅ヶ崎東自治会に加入	自治会加入により、回覧板を通じ、NPO活動を地域の皆さまに知っていただいています。町内会には造園の専門家や主任児童委員などがいるので、NPO立ち上げ当時からNPO運営、地域交流へのアドバイスを頂いています。
学校との関わり	各公立小中学校PTA活動	法人メンバーの子どもが全員違う公立の小・中学校なので小学校・中学校でそれぞれの場面でPTA活動や役員などを担い、学校近隣花壇や地域の環境美化・ごみ拾いなどの環境保全活動、地産地消活動に子供たちと一緒に取り組んでいます。小学校の生活科の事業の為に先生を生産者に繋ぐこともあります。子供たちの「地産地消、流通・環境保全」の授業に役立てて頂いています。
他の市民団体との関わり	早瀬川ファンクラブ 茅ヶ崎・徳生公園愛護会	法人会員が3団体に20年ほど属し、環境美化、ごみ拾いマイクロプラスチックの研究など環境保全活動を継続中です。
企業等との関わり	(株)横浜都市みらい (株)ジュリエッタガーデン JA横浜地域ふれあい課	・活動におけるの広報や集客場所の提供、NPO活動へのアドバイスなどのご支援を頂いています。 ・子育て支援へのアドバイスと野菜栽培など環境保全、地産地消においてご支援を頂いています。(今夏にはNPO会員に向け、ミニトマトの栽培に関し指導を頂きました) ・東方農業専用地域での野菜収穫体験の際に野菜の知識やクイズお手伝いなどご支援を頂いています。
行政との関わり	横浜市親と子のつどいの広場運営 地産地消、交流事業等。区役所、市役所と連携	・横浜市子ども青少年局 子育て支援部子育て支援課「親と子のつどいの広場補助金」を受け親と子のつどいの広場「ハッピーひろば」を運営しています。 (2019年12月より) ・市役所では主に子育て支援課と連携しています。区役所では都筑区地域振興課、子ども家庭支援課、区政推進課と連携しています。都筑区地域振興課地域づくり大学校講師を務めました *別紙1-5参考資料2
その他、環境以外の分野との関わり	・NPO法人Iloveつづき ・農家 折本やまさ農園 (別紙1-4参考資料1) NPO法人シェアリングケアリングカルチャー	・NPO活動における運営アドバイスとIT等の技術支援を頂いています。 ・「よこはま地産地消フォーラム2010」(横浜市環境創造局主催、アートフォーラム共催)農家のトークライブで出会い、現在も一緒に地産地消交流活動を続けています。数々の立毛品評会等の優秀賞を受賞している農家です。 ・都筑民家園(横浜市指定文化財)などを利用し食育、地域交流事業などでご一緒しています。

4 団体の発足経緯／活動を始めたきっかけ、動機

2010年に前身団体を結成し家族支援や相互保育での運動や食育を通じた多世代交流、食育・地産地消という環境活動を10年継続してきました。メンバーは子育て中、祖父母の立場で、地域住民とし関わる人がいます。

結成10年目にこれまでの活動をより一層広め、親子・家族の悩みや地域課題に沿った活動を行います。地元野菜をキーワードとした「地産地消・食育・農地保全推進の環境活動」を継続し、多くの笑顔があふれる街になるよう『地域まるごと「子育て応援団」』の想いでNPO法人を設立。法人化により理念を共有し、組織を強化します。多世代のメンバーが集い行政や他団体と連携することで地域の活性化にも繋がっています。

5 今までの活動

「活動の目標・ねらいに対する成果」

NPO全体としては家族、高齢者、障がい者を含む全ての地域住民に対し、女性支援・子育て支援の集いの場の運営、イベントの開催、食育事業、リフレッシュメント支援事業などを行うことにより、多世代交流の場所と機会を提供し、もって「地域住民の心身の健康、コミュニティの醸成および地域の活性化に寄与すること」を目標とする。

「小松菜プロジェクト活動」と称して全国でも都筑区の生産数が多い「都筑区の小松菜」を中心に横浜の貴重な財産である「農作物の周知、地産地消、農業専用地域が住まいの近くにあり環境保全されている魅力」を市民にもっと知ってもらい、地域の活性化・愛着づくり・健康づくりにつなげたいという想いで活動しています。野菜の栄養面や生産に関する基礎的な学習、子供向け食育・料理・収穫体験などの講座を企画実施。農家との交流事業も開催。乳幼児から中学生までの子供と親、地域の多世代との交流にも力を入れ「地域住民が地元の環境を愛し、健康でいきいきと、安心して暮らせるような暮らしやすい街づくり」をしていきます。

生物多様性に関する取組（生物多様性特別賞の選考の参考とします）

毎年行っている「地元野菜の収穫体験」（JA横浜地域ふれあい課が応援）によって消費者と生産者の顔が見えるお付き合いが出来ています。JA横浜直売所などでも自然と地元野菜を手取るように消費者、参加者意識が変わってきました。地元の農作物、地域の農業専用地域環境を知り、地元環境をより好きになる為の食育啓蒙活動は結果、生産者の生産意欲も高めているようです。地産地消の推進は流通エネルギーのスマート化にも貢献し、子供たちだけではなく大人にとっても「流通・地元の農業専用地域環境・農作物・環境負荷等について」等様々なことを学ぶ貴重な機会となっています。地産地消推進は環境に優しく生物多様性を守ることとなります。

6 今後の活動方針

横浜市こども青少年局の補助金事業 親と子のひろば「ハッピーひろば」を運営しています。拠点を構えながら地域の子育て支援・食育活動・地産地消推進及び農業専用地域を学び守る環境保全活動に力を入れていきます。

●拠点内での活動方針（その他活動）

近年の「ワンオペ育児」による子育ての孤立や、超少子化時代における子育て世代が社会的に少数派になりつつあり、特に乳幼児を育てる親は日常的に社会の厳しい視線を浴びていることによるストレスが問題になっています。各家庭での考え方の多様化から「お互い様」の育児はもはや消えつつあり「自己責任」という言葉をよく聞くようになりました。こんな息苦しい世の中で育児をしている親子を支援するために「親子で集まり仲間と悩み、苦しみを共有する」場を提供しかけがえのない子育て期間をより良き時間にしてもらいたいと考えています。

子育て施設に集い講座に参加、地域の多世代交流企画などを通じ、地域の一員としての家族の交流をはかり親子の幸せづくりと「虐待防止、少子高齢化対策、地域コミュニティの醸成」などを見据えた活動を継続しています。

●拠点外の活動方針（環境活動）

「小松菜プロジェクト活動」と称し収穫体験や食育・地産地消推進の環境活動を様々な公共施設（地区センター等）や農業専用地域にて継続し行っていきます。その際には横浜市内で生産された農作物を積極的に意識し使います。これまでの食育啓蒙活動をより一層広め、親子・家族の悩みや問題に沿った支援を行いながら、長年続けている地元の野菜をキーワードとした「地産地消の食育活動・農地を守る環境活動」を継続し多くの笑顔があふれる街になるよう『地域まるごと「子育て応援団」』の想いで活動します。地元の民家園（横浜市指定文化財）等を積極的に利用し、民家園とも連携し文化財を保全し守る、環境活動のお手伝いを継続します。また、農業専用地域を守るための地産地消推進等、様々な環境活動を継続します。

7 審査にあたり、最も注目してもらいたい取組、PRポイント

●注目・評価してもらいたい点

市民活動では「人、もの、金、情報」が大事と言われますが、私達はこの中の「人、情報」の二つを特に重視しています。

・「人」多様な世代の多様な人材力

介護ヘルパー、介護福祉士、障がい児地域訓練会代表、横浜市子育てサポート預り会員、小中学校PTA 執行部福祉住環境コーディネーター、家庭園芸協会グリーンアドバイザー、管理栄養士、製菓製パン士、一級建築士、一級建築施工管理技士、二級建築士、一級土木施工管理技士、二級造園施工管理技士など。国家資格保有者も多数。ソフト・ハード面ともに育児支援・地域コミュニティ作りに関しプロフェッショナルなメンバーで「いつまで魅力にあふれ、安心していきいきと暮らせる街づくり」を今後も推進していきます。

・「情報」一番大事な部分

区内の全地区センター、区民活動センター、区役所、市役所と繋がっていること。

地域の子育て支援・環境保全・街づくりに実績のあるNPO法人、企業とも繋がり、情報共有と連携します。

●一番成果があがっていると思う取組（現在継続6年目）

「小松菜プロジェクト活動」で毎年行っている農業専用地域を守り環境保全する大切さ、地産地消を学ぶ「野菜の収穫体験」では農家 城田朝成さんと協力し企画して幼児から小学生のこどもたちと農家との交流があり毎回100名超えの参加があります。農業専用地域の素晴らしさ、地産地消の素晴らしさを子供たちに伝えています。

●他の団体と異なる自分たちの強み・独自性

「人材力を強み」に様々な発想でコロナ禍も乗り越えています。

オンラインで絵本の読み聞かせや母親同士の悩み相談、リフレッシュおしゃべり会等SNSを活用した取り組みをしています。

*参考資料写真

都筑区地域振興課 発行
緑ジン冊子に掲載



●取組の過程で、どのような努力・苦労があったか

10年間メンバーが誰も離脱していないのはお互いの対話の努力の成果かと思えます。そのためには参加者の笑顔の為のお手伝いはもちろん、親子を支える自分たちが健康で前向きであることを心がけています。

地元の環境保全ボランティア・自治活動・PTA活動などにも積極的に取り組んでいます。

活動実績 平成 30 年度から 31 年度 (グループ全体)

「小松菜プロジェクト活動」環境・地産地消

①都筑区産小松菜を身近に感じ、かつおいしく消費するための食育講座・料理講座・ワークショップを開催。
(生産者との交流で「農業専用地域の環境保全」と「地産地消」の大切さを実感してもらう)

* 毎回の食育講座では地元農家の畑を訪れ、購入したものを使用

・平成 30 年 9/25

北山田地区センター「小松菜クッキング」 企画・講師 参加人数 大人 11 名、運営従事人数 3 名

・平成 31 年 1/26

仲町台地区センター「小松菜わんぱくクッキング」企画・講師 参加人数 小学生 10 名・地域の大人 2 名
計 12 名、運営従事人数 4 名

②都筑区産小松菜を使った料理のレシピ開発・試作・試食

・小松菜生地練りこみピザ・花巻寿司・横浜野菜ニョッキ小松菜ソース 親子 15 名参加

・小松菜スムージー・小松菜パン、都筑野菜とチキンのサラダ など 親子 15 名参加

③交流事業

・平成 30 年 5/20 中川西地区センター子供向け「わくわくワークショップ」出展

「野菜スタンプのワークショップと」A 横浜作成の農地保全のビデオ放映」

参加人数 150 名、運営従事人数 5 名

・平成 30 年 9/15 「子育て地蔵祭り」にて野菜クイズ出展

来場者数 1000 名超、運営従事人数 2 名

・平成 30 年 10/8 「都筑民家園（横浜市指定文化財）のアート&クラフツ」にて食の提供

来場者数 200 名超、運営従事人数 4 名

・平成 30 年 12/1 子育てサークル「びすけっと・0G」「たんぽぽリズム」の大根収穫体験主催

参加人数 未就園児親子 100 名、運営従事人数 6 名

・平成 31 年 3/10 「NPO 法人結ぶ」主催 「東日本震災チャリティー」に参加 「野菜スタンプのワークショップ」開催 来場者数 500 名超、運営従事人数 4 名

・都筑区役所主催「つづき人交流フェスタ」で活動成果発表、「都筑野菜のカフェ」企画・運営委託。

一日限定カフェで横浜産野菜のスープとご飯提供 平成 31 年 3/23 (土)、パネル展示 3/22 から 3/28 於
都筑区民ホール約 1000 名が訪れる

* 平成 30 年は子供への食育活動とワークショップに力を入れました。

「横浜野菜のおいしさと、都筑区の素晴らしさ」を区内全域で PR しました。

つづき人交流フェスタでは、「都筑カフェ」で都筑野菜をたっぷり使った料理を提供。都筑区役所を訪れる親子や、地域住民に地元野菜の美味しさと地産地消、地元の貴重な環境をアピールしました。

* 都筑民家園では 10 月に「アート&クラフツ」というイベントにて参加者の賄い食を提供し、都筑・近郊の色々な市民団体や NPO 法人約 20 団体に「都筑の地産地消の魅力」をアピールできました。

* 様々な施設からたくさんのご依頼をいただき、「都筑野菜を使った家庭における食育の大切さ、地産地消の大切さ、地元の農地等環境の豊かさ」を発信していきました。

* 都筑区内の育児サークルの親子むけに「大根収穫体験」を企画したところ、初の休日開催で父親の参加も

多くあり、地元農家との交流・連携しながら自分たちなりの街づくり、環境活動を推進しました。

* 地元のケーブルテレビ・イッツコムからも地産地消・環境保全活動として取材を受け、放映されました。

平成 31 年 1 月 26 日



横浜野菜使うピザ作りで取材を受けた

今日の野菜の説明と地産地消クイズ

* 野菜の収穫体験では地元農家城田朝成さん、J A横浜 都筑区東方支店と協力し、地産地消と環境保全推進活動を広めています。毎年 11 月末に開催（本年度は 2020 年 11 月 28 日開催）



活動実績 令和元年度から令和2年度 (グループ全体)

その他事業

① 子育て環境コーディネートに関する事業

「親と子の集いの広場」拠点運営準備及び「出張ミニ親子の広場」の企画・開催

- ・令和元年5月27日 親子の広場出張広場 かけはし都筑にて 運営4名 参加30名
- ・令和元年6月17日 親子の広場出張広場 かけはし都筑にて 運営4名 参加16名
- ・令和元年9月30日 親子の広場出張広場 鴨池ログハウスにて 運営4名 参加40名
- ・令和元年10月7日 親子の広場出張広場 かけはし都筑にて 運営4名 参加20名
- ・令和元年11月18日 親子の広場出張広場 かけはし都筑にて 運営4名 参加24名

② 女性・家族支援に関する講座などの企画実施・調査

- ・令和元年6月27日 仲町台地区センターにて 「母の集いの場」主催 運営4名 参加10名
- ・令和元年7月4日 葛が谷地域ケアにて 「お悩み茶話会(発達障がいの相談会)」主催

運営4名 参加7名

- ・令和元年8月27日 仲町台地区センターにて 「母の集いの場」主催 運営4名 参加8名
- ・令和元年10月3日 仲町台地区センター自主事業 「ママクラブ・保育付きスイーツ作り講座」講師

運営4名 参加11名

- ・令和元年10月31日 葛が谷地域ケアにて 「お悩み茶話会(発達障がいの相談会)」主催

運営4名 参加12名

- ・令和元年11月28日 仲町台地区センターにて 「母の集いの場」主催 運営4名 参加8名

- ・令和元年12月12日 仲町台地区センター自主事業 「ママクラブ・保育付きスイーツ作り講座」講師
- 運営4名 参加12名

- ・令和2年2月27日 仲町台地区センター自主事業 「ママクラブ・保育付きスイーツ作り講座」講師

運営4名 参加14名→コロナで中止

- ・令和2年2月26日 子育て支援拠点「ポポラ」にて新学期へのお悩み茶話会 講師

運営5名 参加10名→コロナで中止

「小松菜プロジェクト活動」環境・地産地消

① 地産地消・食育支援事業

「小松菜プロジェクト」の食育活動を継続した。地区センター主催「子供向けワークショップイベント」の試作や当日の活動

- ・令和元年9月22日 北山田地区センター自主事業 小学生向け「小松菜まるごとクッキング」 講師

運営6名 参加15名

- ・令和2年1月18日 ハウスクエア横浜にて「セレクトカフェ」小松菜の栄養価・地域の農地保全・環境保全をPR *具体的には農地に行った際の写真、収穫体験の写真などを放映。農林水産省資料を用いて都筑区農業専用地域の面積紹介、横浜や全国における農地の面積比率や野菜の収穫数のグラフなども提示。横浜市の農業と専用地域を守るための取り組み、環境についてPR

運営3名 参加25名

- ・令和2年2月16日 地区センターにて法人自主事業 親子向け「都筑野菜をたっぷり使った料理講座」企画
- 運営4名 参加14名

②地域支援・交流に関する事業

★新規事業→都筑区産小松菜を身近に感じ、おいしく消費する活動を継続中。本年度は日本人親子向けも継続しながら新たに外国人親子向け食育講座、ワークショップ、野菜の収穫体験の企画・開催（生産者と子供の交流「地産地消」活動に外国人親子を招く）

- ・令和元年5月14日 都筑民家園（横浜市指定文化財）にて 竈炊きご飯試作定例会 運営3名参加7名
- ・令和元年5月19日 中川西地区センター「わくわくワークショップ」小松菜クイズとワークショップ 運営5名 参加200名
- ・令和元年9月14日 NPO アイラブつづき・早渚川親水愛護会 共催「子育て地蔵祭り」にて野菜のクイズ、野菜のワークショップで出展 運営6名 参加35名
- ・令和元年10月20日 都筑民家園にて SCC と竈炊きご飯、英語の遊び、環境保全のワークショップ 運営10名参加 50名
- ・令和元年10月26日 都筑民家園主催「アート&クラフツ」にて都筑野菜の賄食を提供 運営4名 参加300名
- ・令和元年11月30日 「子育てサークル」の大根収穫体験 主催 運営6名 参加95名

*平成元年から2年も都筑区産小松菜を身近に感じ、かつおいしく消費するための、食育講座・料理講座・ワークショップを開催。（生産者との交流で「農地の環境保全」と「地産地消」の大切さを実感してもらう）

*毎回講座などでは地元農家の畑を訪れ、野菜を購入し使用

「近日中予定」

令和2年11月28日 「子育てサークル」の大根収穫体験 主催 運営10名 参加103名参加
東方農業専用地域にて

*その他 定期的な試食会、定例会開催、小松菜料理の研究レシピ作成、小松菜メインの食育、地域の「健康促進への啓蒙活動」

*地元の小学校教師を農業専用地域にお連れし農家に繋ぎ、「環境保全・地産地消・流通」教育へのお手伝いをしました。

参考資料1)

一緒に収穫体験や環境活動をしている「折本やまサ農園 城田朝成さん」掲載記事。「小松菜プロジェクト」が連携している地産地消推進グループとして紹介されました。（農業共済新聞2014年7月3日号）

ヘッドライン掲載一覧	購読申込&お問い合わせ	農業共済新聞とは?	情報提供&ご意見・ご感想	コラム防風林
------------	-------------	-----------	--------------	--------

「小松菜博士」として農業講座や催しに参加 交流の輪を広げ信頼築く —— 神奈川県横浜市・城田朝成さん（3面・暮らし）【2014年7月3週号】

nosai

「みなさんに買ってもらい、口に入れて私たちの仕事は終わる」と話す横浜市都筑区折本町の城田朝成（ともあき）さん（48）は、母・秀子さん（69）とともに露地40アール、ハウス20アールでコマツナを周年栽培している。労働時間を午前9時～午後5時と決め、年間約10万束を出荷。小松菜博士として消費者との交流イベントに参加し、都市農家の現状やコマツナ栽培の過程などを説明する。生産者の声を消費者へ届ける中で、野菜の地産地消を推進する消費者グループが設立されるなど交流の輪が広がっている。

(3面・暮らし)

〈写真：雨の中でコマツナの収穫に精を出す朝成さん〉

◀ 新聞トップページへ戻る
◀ 過去の記事一覧へ戻る

◀ NOSAIとは ▶ NOSAIの事業 ▶ 各地の農業共済組合 ▶ 獣医師採用情報 ▶ 農業共済新聞

都筑区地域づくり大学校の講師を務めました。2020年11月14日都筑区役所にて



中尾文枝・岡本典子・原田恵実





見て! 聴いて! 話して!

やってみよう地域づくり

都筑区地域づくり大学校

「地域で活動してみたい…でもその一歩を踏み出せない。」

地域づくり大学校は、そんなあなたにピッタリ!

「座学+フィールドワーク+ワークショップ」で地域活動やまちづくりのノウハウを学び、地域の課題や自分のやりたいこと、できることを発見する講座です。

9/20日 (令和2年) ~ 1/23土 (令和3年)

全5回

詳細は裏面をご確認ください

定員	10名 (応募多数の場合は抽選)
受講対象者	<p>以下①~④全てに該当する方</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 都筑区に在住・または在勤・在学の方、または都筑区内で活動している方 ② 地域づくりに興味がある方、都筑のまちをより良くしたいと思っている方 ③ メールで連絡が取り合える方 ④ 全5回の講座に出席し、修了後も区内で活動する意欲をお持ちの方
受講料	無料 ※講座にかかる交通費、昼食代等は実費負担となります。
応募方法	<p>以下の項目を記入し、Eメールにて都筑区 地域振興課 地域力推進担当あてまでお申し込みください。</p> <p>※件名は【地域づくり大学校申込】としてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 申込者氏名(ふりがな) ② 郵便番号・住所 ③ 年代・性別 ④ 電話番号(日中につながる番号) ⑤ 所属団体名(何か活動に参加している方のみ) ⑥ 応募したきっかけ <p>注意:「@city.yokohama.jp」のドメイン指定受信設定をお願いします。区からの連絡は原則としてメールで行います。いただいた個人情報は、本事業の運営以外には使用いたしません。</p>
申込先	tz-chishin@city.yokohama.jp (都筑区 地域振興課 地域力推進担当あて)
申込締切	<p>令和2年8月28日(金)17:00まで必着</p> <p>※応募者多数の場合は抽選となります。</p> <p>9月4日(金)17:00までに連絡がなければ、全員受講できます。</p>

※講座の様子を撮影し、ホームページや広報に掲載する場合がありますのでご了承ください。

※地域づくり大学校は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の取組等の事情により、中止・延期などになる場合がありますのでご了承ください。



プログラム

地域へのはじめの一步

～地域を知る、自分を知る～

第1講

日時 | 令和2年9月20日(日) 10時～12時30分

場所 | 都筑区役所会議室

オリエンテーションやグループワークを行うほか、地域づくり大学卒業生 大和 力氏による実現した活動の体験談を聞き、これからの講座の下地とします。



ゲストスピーカー:大和 力氏

総合監修・アドバイザー



参画はぐくみ工房代表兼 ファシリテーター 竹迫 和代氏

社会教育、生涯学習等を専門とし、横浜市や川崎市等でファシリテーションの普及・研修を行う。

第2講

日時 | 令和2年10月10日(土) 9時30分～12時

場所 | 中川駅周辺、中川西地区センター

中川駅前商業地区の活性化の取組をフィールドワークや講義を通して学び、自分の地域活動のアイデアにつなげます。



講師:NPO法人ぐるっと緑道 塩入 廣中氏

地域を一緒に考える

～地域活動の先輩から学ぶ～

第3講

日時 | 令和2年11月14日(土) 10時～12時30分

場所 | 都筑区役所会議室

“自分の場所は作る?見つける?” 市民活動からスタートし、横浜市の補助事業『ハッピーひろば』を運営するまでの実例紹介やワークショップを通じ、地域活動の実践的なコツやノウハウと一緒に考えていきます。



講師:NPO法人H&K(左から) 原田 恵実氏、中尾 文枝氏、岡本 典子氏

アイデアを練る ～事例を踏まえてアイデアを具現化する～

第4講

日時 | 令和2年12月26日(土) 10時～15時30分

場所 | 都筑区役所会議室

「+クリエイティブ」をコンセプトに、防災や教育、まちづくりなど様々な分野の社会課題の解決を図ってきた実例紹介やワークショップを通して地域活動のアイデアを練ります。

講師:デザイン・クリエイティブセンター神戸【KIITO】副センター長、NPO法人プラス・アーツ 理事長



永田 宏和氏

アイデアを発表する ～自分がやりたいことを表現する～

第5講

日時 | 令和3年1月23日(土) 14時～17時

場所 | 都筑区役所会議室

これまでの学びをもとにしたアイデアを受講生が発表します。発表した内容は、講師や受講生がフィードバックを行い、地域活動の実施につなげます。



【主催】都筑区役所

【申込先・問合せ先】都筑区 地域振興課 地域力推進担当
申込先:tz-chishin@city.yokohama.jp

TEL 045-948-2474 FAX 045-948-2239
申込締切:8月28日(金)17:00まで必着